

『歩道のひみつ大発見！』

—教師用ガイドブック—

●はじめに

- ・ 毎日通う通学路を見つめ直してみることから始めるとよいでしょう。まず、学校周辺の歩道を歩く体験をし、今まで何気なく見ていた歩道への新たな気づきを促したり、見方を広めたりするきっかけにします。
- ・ 単元の進め方により、個人、グループ、一斉のどの授業形態で行うか選択してください。
- ・ 市役所などにインタビューをする際には、事前に連絡をとり、学習の趣旨や訪問時刻、滞在時間などを伝え、わかりやすい言葉で話してもらうようお願いしておきます。
- ・ 歩道を歩いたり、取材をしたりする場合、交通安全やマナーに対する指導を十分に行ってください。
- ・ 歩道の管理等の管轄は、市町村により課が異なる場合があります。（道路課・道路維持課・公園緑地課など）

●各ステップにおける留意点

STEP 1 歩道を歩いてみよう

- 「点字タイルの拡大図」「カラー歩道」「道案内板」「たばこの吸い殻」の画像を見て、何のためにあるか話し合う。
- ・ ここは、歩道にあるものをもう一度よく見てみたいという気持ちを高める導入の段階です。ですから、子どもの実態やねらいによって、この4つの画像のいくつかだけ提示してもよいし、教師が集めた地域の特徴を表す画像を提示してもよいでしょう。
- ・ 「点字タイル」は、福祉、ユニバーサル・デザインへと視野を広げる画像、「カラー歩道」は、町の景観へと視野を広める画像、「たばこの吸い殻」は、歩道的美観、気持ちよさへ視野を広げる画像、「道案内板」は、利便性に気付く画像として選択してあります。
他に地域の特徴へと視野を広げるきっかけになる画像として、「マンホールの模様」の拡大画像などを提示してもよいでしょう。
- 学校周辺の歩道を歩いて、4つの画像と似たようなものを探したり、歩道にあるいろいろなものを見つけたりする。
- ・ 学校周辺を歩く際には、交通安全や、歩道を広がって歩くなどして、歩行の妨げにならないようマナーに気をつけさせてください。
- ・ 歩道を歩くときには、発見したものを記録できるように筆記用具、ワークシート、デジタルカメラなどを（必要に応じて時計）もって出かけます。
- ・ いろいろなものを見つけようとするのではなく、同じものがいくつあるかなど数えて歩く子どももいますが、子どもの目で自由に歩道を見つめさせることが大事なので、個々の発見の仕方を認めていきましょう。
そして、その子どもの「なぜ？」という疑問を尊重し、そこから追究していくように促してください。

STEP 2 歩道で見つけたものを紹介し合おう

- 記録したものをしながら、気づいたことや自分の考えを付け加えて、紹介できるように整理する。
- ・ 歩道で自分が発見したことに対して、自分の考えをもつことが大切ですが、もてない子どもには、気づいたことだけでも書くように促してみてください。
- ・ 紹介の仕方は、いくつか例を挙げて選択させるとよいでしょう。
（例） 画像をＴＶに映しながら紹介する。
絵にかいたものを見せながら紹介する。
実物を見せながら紹介する。 など
- 整理したものを、デジタルカメラの画像をテレビ画面に映したり、拾ってきた実物（例えば拾い集めたごみなど）を提示しながら、自分の考えや意見とともに紹介する。
- ・ ここでは、紹介することも大事ですが、友だちの話を聞きながら自分の気付かなかったことを知る機会でもあります。自分の考えや意見と、友だちの発表とを比較しながら聞くよう助言してみましょう。

STEP 3 歩道で見つけたものをなかまわけしてみよう

- 歩道で見つけたものをなかまわけする。
- ・ 今まで疑問や興味をもてなかった子どもが、仲間わけするおもしろさを味わい、自分の課題を見つける橋渡しになるステップです。
- ・ 「人の気持ちをなごませる」「安全に歩ける」「障害のある人に優しい」「歩きやすさ」「便利さ」「マナー」などのなかまに分けていくと思われますが、子どもの主観を大事にし、大人の一方的な見方を押しつけないようにします。

STEP 4 歩道についてもっとくわしく調べよう

- 歩道で見つけたものから、問題に思うことや、詳しく調べてみたくなったことを課題にする。
- ・ 調べる方法を見つれたり、課題解決に向けて活動の見通しをもったりできるように指導します。中学年ということで活動体験が少ないので、調べ方や計画の立て方など、しっかり指導することが大切です。
- ・ 課題解決のために、インターネット、取材、見学、本などからどんな方法で調べるのかをまずは決めてから活動に取りかからせてください。
- 歩道についての自分の課題を追究する。
- ・ 課題追究の過程で様々な体験をすることで、追究したいことが変わり、課題を変更する子どもがいてもそれを認め、初めの課題に固執する必要はありません。
- ・ 「歩道白書作り」に向けての見通しがもてるように、どんなことをだれに訴えていきたい

か考えながら、追究を進めていくよう言葉掛けをしましょう。

- ・ 行き詰まりを感じている子どもに対しては、教師が個別に支援したり、学級で悩みを取り上げ話し合う場を設けたりするののも一つの方法です。
- ・ 歩道に関する知識だけを習得するのではなく、体験から出てきた思いや、感動を大事にしていくことが追究の意欲を高めていきます。
- ・ 一人で追究するだけでなく、必ず取り組みの方法や取り組んでの心情面をグループや学級で共有する場を設けるよう心がけてください。
- ・ 外で活動する場合、安全に気をつけるよう配慮してください。
- ・ インタビューや取材に出かけるときは、礼儀やマナーの事前指導を行っておきます。
- ・ 市役所などにインタビューをする際には、事前に連絡をとり、学習の趣旨や訪問時刻、滞在時間、ぜひ子どもに話してほしいことなどを伝え、わかりやすい言葉で話してもらうようお願いしておきます。
- ・ 課題追究では、なぜそうなっているのかということを予想したり、調べたりする活動が大切になってきます。

<課題テーマ例>

- ・ 歩道の障害者や高齢者の方に対する工夫を調べよう。
- ・ 通りの名前にどんないわれがあるか調べよう。
- ・ 歩道の種類を調べてみよう。
- ・ 歩道の学校周辺ともっと人通りの激しい駅（商店街、大きな病院付近など）の違いを調べてみよう。
- ・ 歩道を利用する人の気持ちを和ませる工夫について調べてみよう。
- ・ 歩道の利用者の安全確保のためにどんな工夫がしてあるか調べてみよう。

STEP 5 『歩道白書』をつくり、発行しよう

- 調べて分かったことや歩道に対する自分の願いをまとめる。
- ・ ここで、自分の追究してきたテーマから、だれにどんなことを主張したいかをはっきりさせてから、歩道白書を作らせてください。
- ・ 何をまとめるか戸惑っている子どもには、今まで書いたワークシートやデジタルカメラや写真機で撮った画像などを見ながら振り返ってみよう助言するとよいでしょう。
- ・ 「歩道白書」のレイアウトがわからない子どもには、町をアピールしたパンフレットや、いろいろなポスターを提示するなどしてイメージをもてるようにしてもよいでしょう。
- まとめたものを一冊にして、「歩道白書」を発行し、市役所、歩道沿いの家などにも配布する。
- ・ 「歩道白書」は、一冊にまとめなくても、パンフレットや新聞形式にしてもよいでしょう。
- ・ 取材やインタビューなどでお世話になった方々に製本した「歩道白書」を渡しに行くときは、あいさつなど礼儀の指導をしておきましょう。
- ・ 『歩道白書』をつくろうになっていますが、追求したことをもとに、『歩道フォーラムを開こう』など、学級の実態に応じた展開が考えられます。